



老健における、特定ケア看護師の挑戦

地域包括ケアセンターいぶき 桐山真理子

はじめに

私は滋賀県米原市にある地域包括ケアセンターいぶき(以下、いぶき)の老健で、特定ケア看護師(NDC)として勤務しています。いぶきは診療所、居宅介護支援事業所、デイケア、老健があり、訪問看護や訪問リハビリも行う複合施設です。そんな中で私は老健に長年所属し、2018年度からNDC 3期生として研修を受けさせていただきました。

老健からNDC研修に参加した理由

いぶきの医師は常勤2名と非常勤数名で、午前中は外来、午後は訪問診療や出張診療所での診察を行ったり、外来のない日には乳幼児健診や病院での退院カンファレンス、産業医としての訪問、行政や地域の介護サービス事業者との会議など、多岐にわたる仕事でさまざまな場所へ赴かれます。その中で老健の利用者さん(入所とショートステイ併せて60名)の、フォローもされています。医師の忙しさは感じつつも、老健看護師としては体調を崩した利用者さんを前に、医師が様子を見に来てくださるのを今か今かと待ちわびることが何度もありました。

「見る」ことを生業とする看護師としては、バイタルサインの観察や利用者さんの身の回りのケアを行うことは得意です。しかし観察やケアの中で何か異常があった時、すなわち「診る」ことが必要になった時、十分な情報収集やアセスメントができず「早く先生に診てほしい」と医師頼みになっていました。もちろん、診療や診断は医師の業務であり、「診る」ことは看護師の仕

事ではないと考える人もいます。しかし、医師が常時いるわけではない老健や、忙しい病院、過疎地域などでは、「診る」ことが遅れることで困るのは患者さんです。また、患者さんの状態がよく分からないままに看ることは看護師にとっても不安です。医師が多忙な場において、また自分の不安を解決するためにも、「診る」ことについて学ぶことは有用だと思い、研修への参加を希望しました。

老健におけるNDCの役割

NDCも医師の包括的指示の元で動く存在で、診断をすることはできません。決して医師の代わりにはなれません。しかし「診る」ということを学ぶことで、医師が「診る」ために必要な情報を先に集めたり、医師が考える流れに沿って状況をプレゼンすることはできます。例えば利用者が発熱した際、身体診察を行い、診断のために検査が必要だと考えればエコーや心電図、尿検査など非侵襲的な検査の場合自分の判断でさせてもらいます。所見をもとに、感染症を疑うなら抗菌薬は必要か、必要なら何を選ぶべきか、投与量を決めるのに腎機能はどうだったなどを確認しておきます。そうして外来診療や他の業務の合間の医師に、一緒に検査結果の確認やアセスメントに不足や間違いがないかを確認してもらい、用意しておいた抗菌薬の処方箋にハンコを押してもらいます。医師にしかできない『診断』のほんの一步手前までの準備、また診断後に医師が行うであろう『治療』を見越した準備を行い、その後の看護につなげることが、



地域包括ケアセンター いぶき



老健ホールの様子

医師の少ない場での特定ケア看護師の役割であり、『診る』と『看る』を大切にする研修センターで自分が学んだことのひとつだと感じています。

老健という特徴

いぶきでは血液ガス検査やCT, MRIの設備はありません。使える薬や行える検査、医療機器は病院に比べると限られたものしかありません。老健での医療は病院のそれよりも、在宅で訪問診療や訪問看護、訪問介護を受けながら療養するのに似ています。正直、できる検査が限られている中で原因が判然とせずに治療を行ったり、経過を観察する時もあり、これでいいのか、何か重大なことを見落としていないかと怖く思うこともあります。しかし、利用者さんや家族さんに医療への希望を確認すると、「病院には行かず老健でできる範囲のことをしてください」と希望されることが多々あります。集中的な治療や病気の原因究明を優先的に考えるなら病院ですが、地域での生活の中でできる範囲の治療や療養を受けながら暮らすという選択を

されたのなら、全力でそれを支援したいと思っています。医療資源は限られていますが、検査ができない分、自覚症状や身体所見を大切にしたり、利用者さんの普段の生活に近い状態で体調を評価したりすることを大切にしています。病気よりもその方の生活に重点を置いて支援するのが老健の特徴であり、難しくもあり、楽しいところだと思っています。

おわりに

患者さんの所見をとったり、医師にプレゼンをしたりと書きましたが、まだまだうまくいかないことが多々あり、勉強不足を痛感する毎日です。老健でNDCがどう動くといいのか、自己学習をどのように重ねていくといいのか、いろいろなことを試行錯誤している状態です。悩むことも多いですが、研修期間中たくさんのことを教えてくださった先生方、コメディカルの方々や先輩NDC、お世話になった研修センターの皆様、そして研修に出してくださった自施設のため、老健でNDCとして研鑽に努めていきたいと思っています。